

# 世界を魅了する「魂のピアニスト」



## 様々な苦難を乗り越え今も 弾き続ける奇跡のピアニスト

日本人ピアニストの母とロシア系スウェーデン人アーティストの父を両親にベルリンで生まれ、5歳の時に一家で日本に移住するも、やがて父はスウェーデンに去る。母の手ほどきでピアノに目覚め将来を有望視されるが、無国籍のために留学は叶わなかった。赤十字難民として出国し、ベルリン国立音楽大学に留学できたのは29歳になってから。30代になってやっとウィーンでチャンスを掴み、世界的な指揮者のレナード・バインスタインの後押しでリサイタルも決定するが、その直前に風邪をこじらせて聴力を失ってしまう。その後は耳の治療を受けながらスウェーデンで国籍を取得。ヨーロッパ各地でピアノ教師をしながら演奏活動を行い、母の死を機に1995年日本に帰国。細々と演奏活動を続けながら猫とひっそりと暮らしていたが、1999年2月にNHKのドキュメンタリー番組「フジ子」あるピアニストの軌跡が放送されて大反響を呼び、60代でCDデビュー。クラシックの演奏家としては異例

のセールスを記録し、コンサートツアーのチケットも発売と同時に完売。ジャンルを超えて音楽ファンの胸にイングリット・フジコ・ヘミングという存在が深く刻まれた。

## 現在も演奏家として多忙 温かい人柄も根強い人気の秘密

あれから18年余りが過ぎ、今でも世界中で演奏活動が続いている。年間約60本のワールドツアーをこなす、チケットは即日完売で新たなオファーも絶えないとか。一方、公演活動で多忙を極める中、猫や犬をはじめ動物愛護への関心も深く、長年の援助も続けている。また米国同時多発テロ後の被災者救済のために1年間CDの印税の全額寄付や、アフガニスタン難民のためのユニセフを通じたコンサート出演料の寄付。3・11東日本大震災復興支援チャリティーコンサート及び被災動物支援チャリティーコンサートといった活動を続けており、こうした温かい人柄も彼女が根強い人気を維持している大きな理由であると思われる。

今年6月には、パリ〜ニューヨーク〜ロサンゼルス〜ベルリン〜京都…と世界を巡る彼女に3年間密着した初のドキュメンタリー映画「フジコ・ヘミングの時間」(小松莊一良監督)の公開も決定。心震える演奏シーンはもちろん、世界中にある自宅でアンティークに囲まれ愛する猫たちと共に暮らす姿を始め、家族や恋についての話など、本作でしか見られないフジコ・ヘミングの素顔に迫った内容で、再び注目を集めそうだ。

3月のイタリア公演、4月のウィーン室内管弦楽団との共演を終え、いよいよ5月からは日本ツアーがスタート。7月1日の昭和女子大学・人見記念講堂での公演プログラムは未定だが、大いに楽しみにしたい。

【東端哲也】

### 【公演情報】

## イングリット・フジコ・ヘミング ピアノ・コンサート

2018年7月1日  
会場：昭和女子大学 人見記念講堂  
開場14:00 開演15:00  
主催・企画 ラ・カンパネッラ／青葉ピアノ

お問い合わせ：青葉ピアノ  
Tel.03-3670-5099

### 映画

《フジコ・ヘミングの時間》  
監督：小松莊一／配給：日活  
6月 シネスイッチ銀座ほか、全国ロードショー